

コンサルタントの現場から

(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

第155回 標準化・ルール化の落とし穴

標準化・ルール化の重要性

どの企業でも、誰もが適切な仕事ができるようにするために、標準化やルール化が推進される。製造の現場であれば、良い品質のものを標準時間で作るために標準作業が決められ、それができるようにトレーニングもする。個人個人が自分の好きなように仕事をしていたのでは、誰もが効率の良い仕事をするにはできないし失敗の原因にもなるので、標準化やルール化することは意味がある。標準化やルール化にあたっては、今まで積み上げてきた仕事のノウハウを集約するので、標準化の進んでいる企業ほど効率もよく失敗することも少ないはずだ。

標準化が進化を止める

ところで、上記のように標準化することは重要と考える人は多いが、標準化することにはいくつかの問題点がある。

その一つは、標準化により進化が止まるということだ。すなわち、標準化することでやり方は固定化される。やり方が固定化されるということは、標準化した途端にやり方の進化が止まることになる。

競争環境は厳しいだけに、常に仕事のやり方は改善されていくことが必要。標準化やルール化はその時の最良の方法を結集して作られるので標準化された時は最高の方法と言える。しかし、環境が変化する中で、そのやり方が進化しないと時間の経過とともに競争に負ける可能性は高くなる。すなわち、どう進化させるかを忘れて、単なる標準化の推進だけでは競争力を高めることにはつながらない可能性があるということだ。徹底して何でも標準化を図っていると自慢される企業もあるが、それは裏を返すと進化を止めた企業ということにもなりかねないということ。大切なことは、標準化の推進と共に、標準化したやり方をどう進化させるか、標準をどのようにして見直ししていくかができていないといけないということなのだ。

標準化された仕事は楽しいか

もう一つの問題は、徹底して標準化され、あらゆることがルール化された中で、それをやる立場で考えてみると、その仕事や作業は楽しいと言えるだろうかということだ。言い換えれば、「君は決められたルール通りの仕事をすればよい」と言われて、ルール通りに

仕事をするのは楽しいかということだ。製造の現場で言えば、決められた通りに手を動かし、決められた時間で作業をし続けるという話しになるのだが、毎日、毎日、決められた通りの作業を繰り返すことに楽しさを感じることができるだろうか。

どのようにして標準化するかを考えると、仕事と、言われた通りにやるだけという仕事に区分されたらどうだろうか。考えるのは面倒なので、私は言われた通りやる方がよいという人もいれば、言われたことだけやるならロボットでもできることで、人としての価値がないと思う人もいるだろう。生活していくためにはやむを得ないと考えるか、やりがいある仕事で自己実現の場なのかでは大きな

【第6面に続く】

<執筆者プロフィール>

高橋 功吉 (たかはしこうきち)

(株)ジェムコ日本経営

常務理事 グローバル事業担当



大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士



株式会社フクダ 正規代理店

OVAL (THAILAND) LIMITED

フクダ製品の販売・メンテナンスを開始!



高精度の製品と
質の高いサービス

FUKUDA

お客様にご満足いただけるサービスを提供いたします。

OVAL (THAILAND) LIMITED

135/12 Amornphan 205 Tower 2, 7th Floor, Soi Nathong,
Ratchadapisek Road, Dindaeng, Bangkok 10400

TEL: (+66)02-692-2101-4 FAX: (+66)02-692-2105

URL: <http://www.ovalthailand.com> e-mail: info@ovalthailand.com

鑄造メーカー様
(2016年竣工) チョンブリ県



電子機器メーカー様
(2015年竣工) ナコンパトム県



自動車部品メーカー様
(2014年竣工) サムットプラカーン県



タイでの工場建築・
増築・設備に経験
豊富な日本人が
全力でサポート!

提案力かつ
ローコストが強み!
工場内設備・電気設
備も一括対応

設計・施工・メンテナンス
も一貫して自社社員
でフォロー!

タイでの
工場建設・増築
お任せください!



TCC
TECNICA CO.,LTD.
www.tcctecnica.co.th

お問い合わせはこちら Tel: 081-991-5078 (杉浦)

E-mail: sugiura.tcc@tcctecnica.co.th

TCC TECNICA CO.,LTD.

(本社)パトナーニ・支拠点シーラチャ 日本人社員6名
122 Moo.20 T.Klongnueng, A.Klongluang, Pathumthani 12120

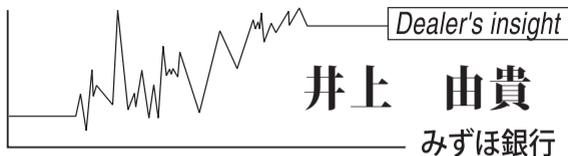
【第5面から続く】

違いがある。それは、楽しい仕事かどうかと共に、貴重な経営資源である人の能力を最大限引き出せているかということにつながる。すなわち、標準化やルール化する際は、その通りやることになる人にどれだけ配慮されているかも重要ということだ。

「標準通りやらされる」から「より良い方法を考える」へ

今回のコラムで述べたかったことは、標準化は重要だが、一度ルールを決めたらそれでよいということではなく、常に進化させることが大切であり、進化させる鍵はそれを実行する人にあるということだ。その仕事について一番理解しているのは標準に基づいて仕事をする人に他ならない。すなわち、標準化されたものを進化させるのは、現場で標準やルールに基づいて作業や仕事をする人なのだ。標準やルールに基づいてやらされるのではなく、目的を理解してよりよい方法を考えて常に標準を進化させるというのも役割と皆が認識することが大切だ。間違っても、君はルールに基づいて仕事をしていけばよいのだというような発言があるようであれば、そこから進化はない。標準化やルール化に縛られて面白くないという愚痴ではなく、目的を理解して進化をさせることで、よりやりやすくすることは、やりがいを持って楽しく仕事ができるようにすることにつながるということだ。

パーツの相場見通し



ドルパーツは続伸

4月25日のドルパーツは31・50近辺で取引を開始。前日の米州時間に米10年債利回りが3%台に乗せたことを背景にドル買い優勢の展開となりドルパーツは31.60近辺に上昇した。

27日に行われた北朝鮮南北首脳会談では、年内に戦争状態を終結させること、完全な非核化を目指すことが表明され、リスクオンムードから31.50台まで下落。月末を控えたパーツ買い需要も重石となった。

その後、30日に中銀が発表した各種指標では3月輸出、輸入ともに前年比6%台をキープするなど総じて良好な結果。月末に伴う輸出企業のドル売りパーツ買いフローを背景に31.50割れまで下落するも、フローをこなした後は再び上昇する展開となった。

5月1日には4月消費者物価指数が発表され、前年比1・07%と13カ月ぶりの高水準を示したが、タイ休日にあたり反応は限定的。米中貿易摩擦懸念が後退する中でド

ル選好が強まり、ドルパーツは2日にかけて31・70台前半まで上伸している。

ドルパーツの上値は限定的か。

米中貿易摩擦懸念の後退と南北首脳会談を足がかりにマーケットはリスクオンモード。原油をはじめとするコモディティ価格の上昇が期待インフレを支え、米長期金利の上昇とともにドル高基調となっている。米10年債利回りは3%の大台を付けた後一旦反落しているが、対アジア通貨を中心にドル高が継続している。本稿執筆時点、連邦公開市場委員会(FOMC)声明文の公表を待っているが、よほどハト派寄りの内容とならない限りはドルの大崩れはなさそうである。

一方でタイ国内に目を向けると、先週から今週にかけて発表されているタイ経済指標は概ね良好な結果が出揃っており、特に4月消費者物価指数に関しては原油価格上昇の影響が大きいとはいえ、昨年2月以来の1%台に乗せている。足元ドル高基調を背景に2月以来の高水準まで上昇しているドルパーツだが、好調なファンダメンタルズを勘案すれば32台に乗せるまでの勢いは感じられない。足元水準をピークに徐々に上値は重くなるものと見ている。

(5月2日 21:30)

BSA、世界基準のソフトウェア資産管理を実施する企業として "SAM Excellence Award 2017" をヤノエレクトロニクスに授与



ソフトウェア産業の世界規模でのキャンペーン事業、サポート事業を行う先進的組織であるBSA | The Software Allianceのアジア太平洋地区シニアダイレクター、ダレン・ソーネー氏(右側)は、ソフトウェア資産管理賞 "SAM Excellence Award 2017" をヤノエレクトロニクス(タイランド)に授与し、ヤノエレクトロニクス(タイランド)社長矢野貴久氏(左側)に賞状が授与された。同賞は、ソフトウェア資産管理(Software Asset Management: SAM)が世界的基準を満たしていると認められた企業に授与され、ヤノ社は同賞を授与された2社目の在タイ日系タイ企業である。現在同社は、プラーチンブリー県の304工業団地において、各種エレクトロニクス製品部品の生産、国内販売、輸出に携わっている。